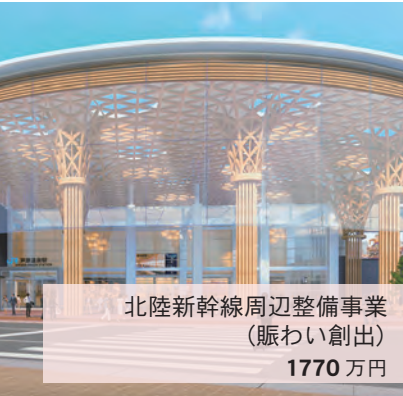




主な事業の予算額

北陸新幹線周辺整備事業
(賑わい創出)
1770 万円



あわらっこ子育て応援祝金
440 万円



金津小学校施設整備事業
2 億 2050 万円



鳥獣害防止対策事業
1256 万円



プロモーションビデオ制作
(ブランド推進事業)
540 万円

各会計の当初予算額 (合計 218 億 2902 万円)

一般会計	147 億円
市の基本的な行政サービスの経費を収支する会計	
特別会計	35 億 6700 万円
保険料など特定の収入で特定の支出に充てる会計。収入の使い道が決まっているため一般会計とは分けています。	
国民健康保険特別会計	32 億 950 万円
後期高齢者医療特別会計	3 億 5250 万円
農業者労働災害共済特別会計	500 万円
企業会計	33 億 4111 万円
一般の会社と同じように、独自の収入でその経費をまかなう「独立採算」を原則とする会計	
水道事業会計	9 億 4757 万円
公共下水道事業会計	23 億 9354 万円
工業用水道事業会計 ※ ₁	—
農業集落排水事業会計 ※ ₂	—
芦原温泉上水道財産区水道事業会計	2 億 2091 万円
芦原地区の特定区域（財産区）の水道事業を運営する会計	

※₁ 工業用水道事業会計は、平成 30 年度で会計を廃止しました。
※₂ 農業集落排水事業会計は、平成 30 年度で会計を廃止し、公共下水道事業会計と統合しました。

家計簿でチェック

今年度の一般会計当初予算を年収約 490 万円（3000 分の 1）
の家庭に置き換えて家計簿にしました。

1 年間の収入合計	約 490 万円	1 年間の支出合計	約 490 万円
基本給与（市税）	156 万 8953 円	食費（人件費）	73 万 7654 円
諸手当（分担金及び負担金）	8 万 9133 円	医療費（扶助費）	94 万 8551 円
副業収入（使用料及び手数料）	5 万 3185 円	光熱水費、消耗品費など（物件費）	63 万 8524 円
預金の取り崩し（繰入金）	23 万 3125 円	子どもへの仕送りなど（補助費等）	109 万 3089 円
臨時収入など（寄付金、財産収入など）	19 万 434 円	家や車などの修繕費（維持補修費）	1 万 5267 円
親からの援助（交付税、国県補助金など）	219 万 3337 円	家などの増改築（普通建設事業費）	54 万 2192 円
銀行からの借り入れ（市債）	57 万 1833 円	借金返済（公債費）	51 万 7934 円
貯金残高（財政調整基金）	96 万 3667 円	貯金（積立金）	512 円
借金残高（市債残高）	592 万 9621 円	その他（予備費、災害復旧費、繰出金など）	40 万 6277 円

収入をみると、昨年より基本給与は減っており、収入の半分近くは親からの仕送りに頼り、銀行からの借り入れも毎年行っています。今後は、親からの仕送りや借り入れの依存を少なくし、基本給与や諸手当、副業収入の増に努めるとともに、支出を抑えていく必要があります。

支出では、食費や医療費、借金返済などの節約が難しい経費が約 4 割を占めています。
これまで、食費や光熱水費、消耗品費などを切り詰めてやりくりしてきましたが、今後もより一層の努力が必要です。

令和元年度
あわら市の
予算
問合せ
財政課
73,8008

「誰もがときめくあわら市」を目指して

令和元年度一般会計当初予算の総額は、歳入歳出それぞれ 147 億円で、前年度と比較して 1 億 6000 万円、1.1% の増となりました。

この要因として、芦原温泉駅周辺整備事業や金津小学校プール改築事業、国営九頭竜川下流土地改良事業負担金などの大型事業が予定されていることが挙げられます。

市の貯金

― 財政調整基金

市の貯金である財政調整基金は、前年度に引き続き財源不足の補填のため基金の取り崩しが必要となり、平成 30 年度末では、前年比 3 億 5800 万円減の 28 億 9100 万円となる見込みです。

市の借金

― 市債残高

市の借金である市債は、平成 29 年度と比較して約 5000 万円の減少となります。平成 30 年度では、道路更新防災等対策事業（石塚橋）や金津東小学校改修事業、伊井公民館改修事業などの費用に借り入れを行いました。償還額の一部が地方交付税に算入される借り入れ（合併特例債など）を活用しています。

一般会計当初予算規模 147 億円

